

平成29年度第1回総合教育会議 会議録

開催日時

平成29年6月2日(金) 午後1時30分～

開催場所

生涯学習センター 研修室B

会議出席状況	市長	津久井富雄	出席		
	教育長	植竹福二	出席		
	教育委員	深澤道昭	出席	川上聖子	出席
		車田宏之	出席	小林朋子	出席
		森泉	出席		
	庶務	教育部長	益子正幸	教育総務課長	大森忠夫
		学校教育課長	佐野英男	政策推進課長	斎藤達朗
		教育総務課 政策推進課	遠藤久子 ・ 渡邊政典 ・ 川崎優志 長井康男		

次 第

1 開 会 午後1時30分～

2 あいさつ 市長

3 議 事

(1) 大田原市総合計画『おおたわら国造りプラン』について

(2) 親園・佐久山中学校再編整備事業の進捗状況について

(3) 小中一貫教育について

4 そ の 他 特になし

5 閉 会 午後2時35分

6 会議の要旨 次のとおり

平成29年度 第1回大田原市総合教育会議

平成29年 6月 2日(金)

午後1時30分～2時30分

生涯学習センター 研修室B

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 大田原市総合計画『おおたわら国造りプラン』について

(2) 親園・佐久山中学校再編整備事業の進捗状況について

(3) 小中一貫教育について

4 その他

5 閉会

平成29年度 第1回大田原市総合教育会議 発言要旨

平成29年 6月 2日 (金)

開会：午後1時30分から

- 教育部長 定刻となりましたので、ただいまから、平成29年度第1回 大田原市総合教育会議を開会いたします。
私は教育部長の益子でございます。本日の進行を務めさせていただきます。
初めに、本会議の主催者であります、津久井市長があいさつを申し上げます。
- 市 長 (市長 あいさつ)
総合教育会議も3年目を迎え、ある程度定着してきた感があります。昨年度末に発生した、大田原高校の雪崩事故については、たいへん痛ましい出来事であり、特に教育界においては、いつ何時こういったことが発生するかわかりませんので、常に危機感を持って、今後の教訓にしていかなければならないと感じております。
本日は、次第のとおり3つの議題がありますが、教育委員のみなさんのご意見をうかがえればと思います。
- 教育部長 ありがとうございます。
- 教育部長 それでは、次第の3 議題について協議させていただきます。ここからの議事進行は、大田原市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定に基づき、津久井市長が行います。
- 市 長 円滑な議事運営に努めさせていただきたいと思っておりますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。
本日の議題は次第3に記載のとおり3件でございます。
まず、(1)大田原市総合計画『おおたわら国造りプラン』について事務局の説明後、協議をお願いいたします。
- 政策推進課長
- ・総合計画の概要について
昭和41年に振興計画が策定される。総合計画の前身。
街路事業として神明町線を整備計画(現在の市役所前通り 浅井鉦油スタンド前から神明町交差点まで)
当時の振興計画は、公共交通の事業費の整備計画を記載したものであった。
昭和46年からは、計画書も冊子となって市のあるべき方向性を示す内容となり今日まで引き継いでいる。
 - ・『おおたわら国造りプラン』
市の最上位計画。市の各施策に方向性を示すものとなっている。
市のすべての事業は、この総合計画に沿って進められている。
この計画は、大田原市自治基本条例に基づき策定されたものであり、効率的な行財政運営を執行するためのものである。
 - ・地方自治法と総合計画
大田原市総合計画のうち基本構想は、地方自治法に規程があり、平成23年度の法改正までは議会の議決が必要であったが、現在は法的な策定義務はなくなり、地方自治体独自の判断に委ねられている。
本市においては、自治基本条例に基づき引き続き総合計画を策定し、計画的な行政運営を行い、基本構想については、従来通り市議会の議決を得ることとしている。

○政策推進課長

・計画の名称『おおたわら国造りプラン』

日本の律令制に基づいた国が成立する以前、現在の本市一帯は湯津上地域を中心とした『那須国』と呼ばれており、『那須国造碑（なすのくにのみやつこ）』は当時の大きな社会変化を現代の私たちに伝えている。

そこで、先人が築き、守り続けてきた自然や歴史、文化に培われた社会を受け継ぎ、人々が安心して暮らし、子どもを産み育てられる社会環境の創造をめざし、『未来につなぐ国造り』を合言葉に市民と行政がそれぞれの役割と責務を自覚し、お互いに尊重し、敬い、協働しながらまちづくりを進めるため、本総合計画の名称を『おおたわら国造りプラン』とし、より良い『おおたわら』のまちを築き、次代に引き継いでいく。

・計画の構成

本市の総合計画は、10か年の基本構想、5か年の基本計画、2か年の実施計画から構成されており、最終の目標年次を平成38年度としている。

・市民の意識と期待

本市に居住する18歳以上の市民3,000人を対象に市民意識調査を実施。

『住み心地』については、約66%の市民が住みやすいと感じており、『定住意向』については、約75%の市民がずっと住み続けたいと回答し、郷土への『愛着心』も約70%の市民が持っているという回答している。

『今後求める市の姿』についての回答結果は、『医療・福祉サービスの充実したまち』がどの世代でも高い値を示しており、本市の医療・福祉のまちづくりが浸透しているものと推察される。

・基本理念

大田原市民憲章に基づき、5つの基本理念を定めている。

①自然と共生した快適で美しいまち

②歴史と伝統を継承した文化の高いまち

③生きがいと活力あふれる豊かなまち

④人を育み、敬い支えあう明るいまち

⑤一人ひとりが主役で、協働する住みよいまち

特に教育関連としては、②の部分が深く関係している。

・まちの将来像

『知恵と愛のある 協働互敬のまち おおたわら』とし、他の大田原市の分野別計画においても、この将来像の実現を目指している。

・土地利用の構想

新聞報道などでもあったが、本市においては、圃場整備を積極的に活用し、東京圏からの移住促進、UIJターンの受け皿として企業誘致、居住環境の創出を図り、地方創成に向けた新たな土地利用を促進していく。

・基本構想

6つの基本施策、39事業から構成されている。

教育委員会関連としては、基本政策②『歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり』の実現のため、生涯学習社会づくりの推進、生きる力を育む学校教育の推進、文化芸術の振興、スポーツレクリエーションの振興、国際化への対応と国内交流の推進など各種の事業から構成されている。

・基本計画

基本構想で掲げた大田原市の将来像『知恵と愛のある 協働互敬のまち おおたわら』の具現化に向けた分野別の具体的な施策・基本事業を明らかにしている。

○政策推進課長

また、特に重要となる事項を分野別計画から抽出し、『テーマ1 安定した雇用を創出する』『テーマ2 新たな人の流れをつくる』『テーマ3 結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる』『テーマ4 時代に合った地域をつくる』『テーマ5 安心な暮らしを守る』これらのテーマについて、行政の分野、領域にとらわれず、組織横断的に事業を実施していく。

これら重点テーマは、『大田原市未来創造戦略』で掲げた基本目標と整合性を図り設定している。

・重点テーマについて

テーマ1 安定した雇用を創出する

○だれもが働けるよう、雇用の創出に努める。

○地域の特性を活かし、地場産業の振興を図る。

テーマ2 新たな人の流れをつくる

○地域資源を活用し情報発信を強化、人の呼び込みを促進する。

○他地域との様々な交流を通じて、大田原市の魅力を発信する。

具体的な数値目標を掲げ、『転出超過数』では平成33年までに年80人とし、『グリーンツーリズム交流人口』では年20,000人としている。

テーマ3 結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる

○自ら学び、情操豊かな子どもが育つ環境をつくる

具体的に力を入れている事業として、校務及び授業におけるICTの活用、学校等における人権教育の推進、小中学校老朽校舎の建替え(大田原中学校)を挙げている。

テーマ4 時代に合った地域をつくる

○行政だけではできないまちづくりを市民参加により実現する。

○市民が協力しあい笑顔と幸せがあふれるまちを築く。

テーマ5 安心な暮らしを守る

○自然災害や火災などに備えた危機管理体制を強化し、市民の安全・安心を守る。

○事故や犯罪に巻き込まれるのを未然に防ぐ安全・安心なまちづくりを進める。

○だれもが安心して生活できるまちづくりを推進する。

・基本政策2 歴史と伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり
すべての施策について、『現状と課題』の抽出、『施策の方向性』、『施策の展開』、『基本事業と具体的な取組』、『施策の目標』数値目標の設定、『部門別計画』計画期間を定めている。

特に教育関連の施策については、『2-(12) 生きる力を育む学校教育の推進』として、

『現状と課題』 家庭や地域と連携した取組を意図的・計画的に位置づけるとともに、確かな学力、高い規範意識、健やかな心と体の育成を柱とした、生きる力の育成に取り組むことが一層重要と分析している。また、児童・生徒の能力差に応じたきめ細かい支援を行うことで、主体的に学習しようとする意欲が高まり、学力の向上にも大きな成果が見られた。今後は、思考力・判断力・表現力の醸成が学力向上の重要な要素であることから、各教科に応じた言語活動の充実が求められている。

『施策の方向性』 少子高齢化やグローバル化など変化の著しい現代社会において、社会に適応できる生きる力を一人一人が身に付けられるよう、確かな学力、高い規範意識、健やかな心と体の育成を柱とする、小中一貫した学校教育を推進する。

○政策推進課長

『施策の展開』（基本事業の概要）

個別具体的な施策として、『教育活動の充実』では、校務及び授業におけるICTの活用、特別支援教育の推進を重点テーマとして取り組んでおり、『教育支援体制の充実』として、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等、専門家派遣の充実、教育支援相談の実施、要支援者の就学援助、外国人児童・生徒への支援、奨学金貸付制度の充実を重点テーマとしている。

また、『教育環境の整備・充実』では、学習環境の整備（空調設備の設置）、小中学校老朽校舎建替え（大田原中学校）を検討しており、『地域とともにある学校づくり』として、コミュニティスクールの推進を進めている。

『施策の目標』（指標）

具体的な数値目標を掲げ、これを最終目標年次までに達成していこうというものである。

重点テーマとした事業については、限りある予算の中で事業を選択し、集中的に投資することで効果を発揮していくということである。

そのほか、資料として大田原市総合計画策定の経緯、非核平和都市宣言（昭和61年10月1日）など都市宣言の一覧、総合計画策定に至る諮問書及、答申書及び提言について説明。

○市 長

ありがとうございました。

事務局の説明が終わりましたので、協議に入ります。ただいまの説明に対し、質問や御意見、御感想などはございますか。

○深澤委員

人口フレームについて、資料にもあるとおり、最終目標の人口を72,400人ととどめようということですが、人口減少を食い止めることはたいへん重要だと思いますし、しっかりと取り組んでいかなければならないと思います。そこで具体的な施策としてはどのように取り組んでいくのかお聞かせ願いたいと思います。

○市 長

人口減少については、高齢者の方々、団塊の世代の方がお亡くなりになっていく自然減が考えられます。特に2025年にはこれらの方々が75歳となってピークを迎え、徐々に人口としては減少してまいります。また、若者の晩婚化、結婚をしないということがここ数年定着してしてしまっておりますので、人口が増えない要因になっているものと思われま。

高齢者の方々がただ亡くなっていくということではなく、できる限り健康で長生きしていただきたいと考えておりますし、何歳になっても社会的な意義のある貢献活動をしてもらい、生涯学習によってさらにスキルアップを図り、社会参加していただきたいと思ひますし、最後には意義のある人生であったという思いであってほしいと思ひます。

若い方々には、これまでも先人たちが命をつないできたことの大切さ、尊さを子どものころから教育し、道徳でもそうですが、命の尊厳や次の世代に命をつないでいくことの重要性を伝えてほしいと思ひます。できることならば、しかるべき時に結婚し、しかるべき時に子を産み、二人と言わず三人くらいの子どもたちを育ててほしいと思ひます。

また、格差社会の中で、子育て環境はたいへん厳しいものでありますし、収入の安定、働く場所の確保というものは、現実的に存在します。これらの改善につきましては、政治的な課題として、積極的に関わって、政策を立案し、子を産みやすい環境、子育てしやすい環境、結婚したくなる環境づくりを政策的に誘導し、大田原の中で進めてまいりたいと思ひます。

○市 長

その一つとしては、給食費の無料化が挙げられるかと思います。始まった当時は、全国でも3、4の自治体しかありませんでしたが、現在は全国で50数自治体で実施されております。これも予算を伴うものでありますので、こういったやる気のある自治体には国も何らかの形で援助の手を差し伸べていただけるように訴えております。

もう一つには、教育内容であります。学力の向上、体力の向上はもちろんであります。子どもたちは十人十色でありますので、一人一人がしっかりと生きる目標を持って、力強く生きていけるような教育、魅力のある教育を伝え、人を育てる教育力のある大田原をアピールして行ってほしいと思います。

これらは、まさにこの総合教育会議の場で議論を深めて行ってほしいと思います。

また、外から人を連れてくるということではなく、まず自分たちの地域の方々が、それぞれにご結婚され、子を産み、育て、自立して人口が増えていくということが望ましい形なのかなと思います。

○市 長

ほかに質問や意見はないようですので、以上で大田原市総合計画「おおたわら国造りプラン」についての協議を終了します。

つづきまして、(2)親園・佐久山中中学校再編整備事業の進捗状況につきまして、事務局の説明をお願いいたします。

○教育総務課長

現在、平成30年4月開校に向けて、統合準備委員会の校務部会において詳細な部分について検討しております。

その中で決定した事項について、統合だよりを作成し、対象地区の保護者や地域の方々に向けて発信しております。

【決定事項】

- ・女子生徒制服は親園中の制服を継続して使用する。
- ・体育着は、佐久山中のデザインを採用する。
- ・そのほかの用具類については、今後校務部会で検討する。
- ・校歌については、佐久山中の校歌を使用する。

【統合に向けた交流事業の実施】

- ・それぞれの学校に出向いて実施している。
- ・修学旅行についてはすでに同じ場所へ出向いている。
- ・プールの授業について、佐久山中のプールを使用し、授業を実施予定としている。
- ・部活動については、現在両校にある部活動については、その後も継続して実施する予定。これまで親園中になかった男子テニス部について、今年度新たに開設している。また、佐久山中の女子バレーボール部については、統合後親園中に開設予定。

【統合に向けた施設の改修状況】

- ・統合後、全2学級で開校を予定している。ただし、平成32年度に入学予定の生徒数では、一時期3学級となる見込みのため、それに対応できるよう今年度教室を改修していく。
- ・統合を見据え、空調設備（エアコン）を新設し、夏休みを利用して設置工事を実施。

【スクールバスの運行】

- ・統合後の佐久山中の生徒を対象にスクールバスを運行予定。
- ・親園中の敷地内にバスの乗降場を設置予定。
- ・現在自転車通学している親園中の生徒の安全に配慮した運行経路、停留所を検討中。
- ・生徒の体力面も考慮し、できる限り佐久山中の生徒にも自転車通学を推奨している。
- ・保護者へのスクールバスについての意向調査を今後実施予定。

- 教育総務課長 **【親園中周辺の道路について】**
 ・統合にかかる説明会でも指摘があったが、親園中周辺道路については、登記簿の権利の関係上用地取得は困難であり、幅員を広げるとは難しいため、昨年度から痛みの激しい箇所順に現道の修繕を実施しており、今年度も引き続き実施している。
- 市 長 事務局の説明が終わりましたので、協議に入ります。ただいまの説明に対し、質問や御意見、御感想などはございますか。
- 市 長 順調に進んでいるようなので引き続きお願いします。
 正式な動きではないが、現在県道の佐久山バイパスの北進を栃木県に要望準備中であり、親園小、中学校の利便性向上のため後押ししていきたいと考えております。
- 深澤委員 佐久山に向かう現在工事中の道路についてですが、早期に完成してほしいと思います。
- 市 長 現在、親園地区の県道バイパスを整備中ですが、佐久山側については、橋を架けてからの整備予定だそうです。橋を架けてからでは、時間もかかりますので、橋を待たずに着工してもらえるように積極的に関わってまいりたいと思います。
- 市 長 ほかに質問や意見はないようですので、以上で親園・佐久山中学校再編整備事業の進捗状況についての協議を終了します。
 つづきまして、(3)小中一貫教育につきまして、事務局の説明をお願いいたします。
- 学校教育課長 **【小中一貫教育の取組み状況について】**
 ・義務教育9年間の系統性のある指導で、一人一人の学力を最大限に伸ばし、進路実現を図る。
 ・特にICTの利活用、英語教育の充実を図っていく。魅力のある市を築くためにも子どもたちの学力を伸ばす教育を展開していく。
 ・小中一貫教育とコミュニティスクール制度を同時進行で推進していく。
 ・小中一貫教育の施設の形態について、まだ市民に浸透していないこともあり、誤解されている方々が多いので、引き続き正しく理解していただけるようにしていく。本市の場合は、施設分離型であり、中学校区毎に区分けし、施設を統合したり、新たな学校を建設することはないということを周知していきたい。
- 学校教育課長 **【平成29年度の取組み】**
 ・宇都宮大学の松本教授を招き、小中一貫教育検討委員会を発足した。
 ・市内9校の校長を中心に検討委員会とは別で独自に組織を立ち上げた。校長がお互いにさまざまな情報交換を実施し、来年4月の開校に向けて遅れている学校がないかなどスムーズな学校運営ができるようチェック体制を強化している。
 ・モデル地区の公開を7月7日、大田原小学校で実施予定。若草中の先生が、大田原小の先生と一っしょに授業を行う予定である。
 ・金田北中学校区は11月に公開授業を実施予定である。
 ・公開授業については、平成30年度に野崎中学校区、湯津上中学校区、金田南中学校区で実施し、平成31年度には大田原中学校区、親園中学校区、黒羽中学校区で実施予定。

- 市 長 事務局の説明が終わりましたので、協議に入ります。ただいまの説明に対し、質問や御意見、御感想などはございますか。
- 市 長 すでにモデル校などで問題点などあるかと思いますが、どんなことが問題となっていますか。
- 教育長 一番の課題は、職員間の意識の問題かと思います。中学校の職員、小学校の職員それぞれに意思の疎通、組織の問題があると思います。校長同士はたいへんうまくいっていると思います。特に若草中、大田原小の取組みはたいへん評価できるものであり、学力の向上にもつながっております。
- 市 長 大田原中へ進学したいという意識の偏重解消のためにも若草中の学力や魅力の向上は必要ですので、引き続き頑張ってもらいたい。
- 教育長 ともに大田原市中心の中学校ですので、お互いに切磋琢磨して伸びてほしいと願っておりますし、そのように取り組んでおります。先生方の気持ちがまとまれば、小中一貫教育は成功すると思いますし、先進事例でも学力の向上は結果として表れているという報告が多いので期待しております。
- 市 長 施設分離型のためのハンデなどはあるのでしょうか。
- 教育長 どの自治体でも存在する問題ですが、新たに校舎や施設を建設できるものではありませんので、現在ある学校施設で実施するという意識でもって取り組んでおります。ですから、先生同士の結びつきは不可欠となってまいりますし、成功するかどうかの鍵になってくると思います。まずは校長が自主的に研究していこうという雰囲気も出てきましたのでありがたいと思っております。
- 市 長 たいへん頼もしい取組みであり、良い成果を期待したいと思えます。また、うまくICTを活用してほしいと思います。先日、富士通フォーラムに出席し、ICTによる授業のデモンストラーションを見学してまいりました。離れた教室で3台のモニターを使いながら授業を展開していくというものでありました。こういった技術により先生方が移動しなくても授業ができるというメリットもありますので今後さらに技術の進歩や利活用が期待されると思います。教育関係のICT活用に関するフォーラムなども開催しておりますので、教育委員の皆様にも一度足を運んでみてもらえればと思います。
- 市 長 ほかにどうでしょうか。川上委員何かありますか。
- 川上委員 さきほど市長のご挨拶にも子どもたちが夢を見て大田原市のことを考えてほしいというお話があったかと思いますが、ほんとうにどれだけの子どもたちや若い世代の方々が大田原市に夢を持つことができるかということが重要かと思います。また、その夢はある程度頭の中でデザインできるものでなくてはいけないのかと思います。小中学校のうちから将来大田原市がどんな市になってほしいのか、道徳教育であったり、社会の授業であったり、先生が自ら子どもたちに問いかけ、新鮮な意見やアイデアを子どもたちから学ぶということも必要なのかと思います。

○川上委員 私自身、たいへん素晴らしい先生と出会い、先生のお手伝いをして
いるときに私も将来先生になりたいと思いましたし、そういった出会
いや経験が、自分の将来像なども描けてくると思います。今の先生方
にも子どもたちが将来先生になってもらえるような教育現場である
とか、多忙な日々かと思いますが、大田原で先生になって子どもたち
を教えたいとか大田原をどうにかしていきたいという方も出てくる
のかと思います。時間はかかるとは思います、そういった種を蒔いて
いくことは重要なことだと思います。

○市 長 非常にありがたいご意見だと思います。ありがとうございました。

○市 長 ほかに質問や意見はないようですので、以上で議題に関する協議
を終了します。
滞りなく議事を進行することができましたことに感謝申し上げます。
ここからの進行は事務局にお願いします。

○教育部長 貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。
次に、次第の4 その他 に移りますが、皆様から何かございま
すか。
何もないければ、以上で、第1回総合教育会議を閉会させていただきます。
お疲れ様でした。

閉会：午後2時35分